

卸・小売
身知
正

ウエルシア薬局 株式会社 高崎上佐野店

障害のある方の人生まで考えた取り組みを



■事業所データ(高崎上佐野店)

設立 2002年(平成14年)
常用労働者数 24人
代表者 上佐野店 店長 須田 尚宏
所在地 〒370-0857 群馬県高崎市 上佐野町字粕沢 907-1

TEL:027-310-6370
URL:www.welcia yakkyoku.co.jp



■会社概要

調剤併設型ドラッグストアをチェーン展開しており、東北・関東・中部・近畿に987店舗を構えています。

■障害のある社員の雇用状況

障害のある社員数 6人
うち重度障害のある社員数 2人

区分	身体	知的	精神
正社員		3人	3人
契約社員			
パート			
アルバイト			

■事業内容

ウエルシア薬局株式会社は、ドラッグ&調剤、カウンセリング、深夜営業に在宅介護を加えた調剤併設型ドラッグストア「ウエルシアモデル」を提供しています。約7割の店舗で調剤薬局を併設し、在宅への訪問服薬指導なども積極的に行っています。全国ネットで社会に貢献するという将来ビジョンを共有し、広域ドラッグストア・ネットワークの構築を目指しています。



■障害のある社員の業務内容

- ・清掃業務
- ・商品の補充業務
- ・店頭への陳列業務
- ・人気商品の確認



■障害者雇用を検討される事業所のみなさまへ

障害のある方は企業にとって貴重な労働力となる存在です



上佐野店 店長
須田 尚宏さん

企業が戦力となるよう育てる

障害のある方を教育する際、どうしても仕事を覚えるのに時間がかかったり、上手にこなせないといったことがあるかと思いますが、障害のある方を企業の足手まといとするのか、生産性のある人材に育てるのか、全て企業に責任があると考えています。障害のある方を雇用することは、その人のこれからの人生を背負い、サポートするべきなのだ

自覚する必要があると思います。

実習で課題を見つける

障害のある方を採用前の実習で受け入れ、実習中の仕事ぶりが良くなかったために、「雇用できなかった」と考えてはいけなと思っています。「障害のある方にもできる仕事を創出できなかった」と企業側の課題として捉えることにより、障害者雇用を進める上で必要なポイントが見えてくると思います。

※特例子会社・・・障害のある方の雇用の促進及び安定を図るため、障害のある方の雇用に特別の配慮をして設立した子会社。一定の条件を満たす場合には、雇用率の算定において親会社の一事業所とみなされる。

社員の1日のスケジュール

障害のある社員6名のうち、知的障害のある渋川さんの仕事の様子を紹介します。

- 9:00 ● 出社
朝礼を行い、連絡事項などを確認後、店舗の清掃を行います。
- 9:30 ● 作業開始
店舗に入荷した商品のチェックと品出しを行います。先輩と一緒に作業をするため、分からないことがあってもすぐに聞ける環境に、とても助けられています。
- 12:00 ● 昼食
休憩室でみんなと一緒に談笑しながら昼食をとります。
- 13:00 ● 作業再開
商品の補充作業を行います。その後、もう一度店内の清掃を行います。それぞれの業務が終わり次第、店長に報告し、次の業務の指示を受けます。
- 16:30 ● 退社



■品出し
入荷した商品を棚に陳列していきます。



■入荷商品確認
店舗に入荷した商品を確認し、在庫管理を行います。



■接客練習
昼休憩後に、社員全員で「いらっしゃいませ」などの発声練習を行います。

雇用に際しての取り組み

時間をかけた教育

障害のある方の能力は一人一人異なるため、雇用してもすぐには仕事を任せたりしません。まず、店舗の仕事内容を一通り紹介した後、指導員の立会いのもと、実際にやってもらいながらできるかどうかを見極め、できそうな仕事から教育し、彼らの可能性を伸ばすようにしています。また、関係機関が開催するセミナーや障害者雇用をしている企業への見学会などに参加し、常に教育のヒントを探しています。



「このくらい教えればできるだろう」と考えない

障害種別に関わらず、一人の人間として、「なにが得意で、なにが苦手なのか」を見極めるようにしています。仕事を覚えるスピードには個人差があり、一度教えれば覚えられない人もいれば、何度も教えてないと覚えられない人もいます。このくらい教えればできるだろう」と考えないようにしています。できるようになるまでしっかり教えることが大事だと思います。



採用後を見据えた実習の受け入れを

当社では、年度を通じて春、夏、冬にそれぞれ1回の計3回の実習を受け入れる期間を設けています。1回目の実習では「挨拶ができるか、指示通りに動けるか」などを見極め、2回目の実習の段階で採用の可能性を判断し、3回目の実習では、配属予定先の店舗にて実習を行い、採用後も本人が戸惑わないよう、実習時の業務と同じ業務を採用後も行っていただいています。



目標をもって活動してもらう

障害のある社員を教育するに当たり、周囲の人間のサポートが必要になりますが、過度のサポートは彼らの自立を妨げる要因になるおそれもあります。また、日常生活においても彼らが自立できるように、金銭管理や資格取得の目標などを相談に乗りながら一緒に考え、必要に応じてサポートします。この取り組みから、知的障害のある方で登録販売者の国家資格を取得する人も誕生し、我々も彼らの成長に驚かされています。



社員の声



渋川 政良さん
(入社:平成23年4月)

職場の雰囲気が明るくて好きです

・仕事内容

午前中は商品の仕分けと品出し、午後は飲料品の補充などを行っています。商品の種類が多くて仕事を覚えるのが大変でしたが、先輩方の丁寧な指導と、分からないことがあればすぐに聞くことができる環境のおかげで、現在ではほとんどの業務を一人で任されるまでに成長することができました。

・仕事に対する思い

店長や先輩、パートさん達が皆さんいい人で、毎日とても楽しく明るく働かせていただいています。好きな仕事は商品の陳列です。新しい商品を並べる時は、パートさん達と「〇〇の新商品が出ましたね」といった話をしながら、和気あいあいと作業を行っています。

・就職を希望している障害のある方へ

今も自分が仕事を続けられている理由は、職場の人たちの優しさや、働くことが楽しいと感じさせてくれる職場環境のおかげだと思います。「障害があるから」という理由で閉じこもっているのは、働くことによって実感できる人生の楽しさに気付くことはできません。諦めずに頑張ってください。